

向羽黒山城(岩崎城)(国指定史跡, 続百名城)(大沼郡会津美里町字船場)

向羽黒山城(むかいはぐろやましろ)は、福島県大沼郡会津美里町にあった日本の城である。城跡は、国の史跡に指定されている。

概要

白鳳三山の最高峰・岩崎山は向羽黒山とも称し、そこに蘆名盛氏が永禄11年に山城を築いた。城の規模は、東西1.4キロメートルで南北1.5キロメートル、面積は50ヘクタール。東を流れる阿賀川や東部分の崖などの天然の要害に加えて土塁や堀などの防御施設がいたるところに造営されている。

岩崎山山頂の本丸(実城)跡を中心に現在公園となっている二の丸跡、三の丸跡、伝盛氏屋敷跡などの郭をはじめ、塹堀や空堀、虎口、石塁の跡などの戦国山城の名残が城跡内各所に残されている。城の東側直下を阿賀川が流れており、さらには会津盆地一円を望むことができる。

歴史

1568年(永禄11年)に蘆名盛氏によって築かれた。

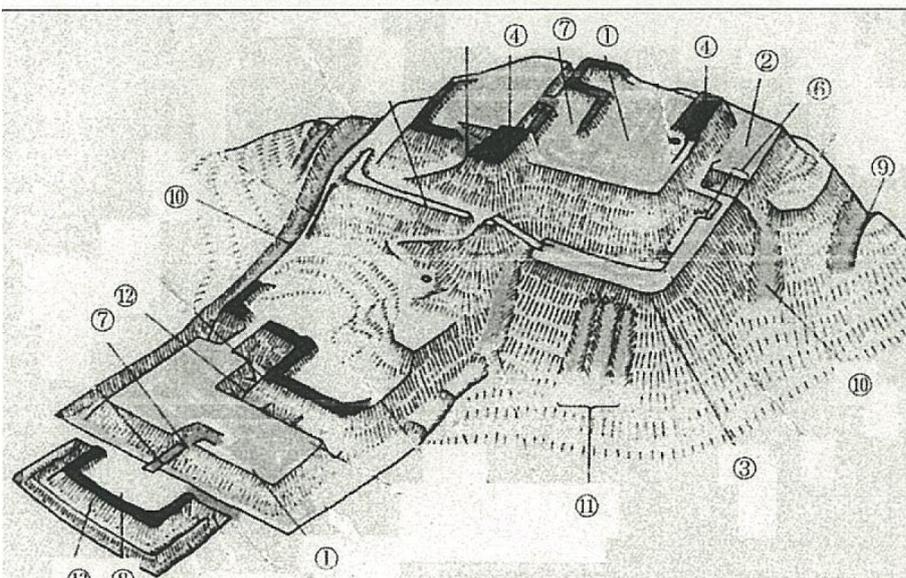
蘆名氏が伊達政宗に1589年(天正17年)の摺上原の戦いで敗れ滅亡した後、会津領主となった政宗や蒲生氏郷、上杉景勝も最後の砦としていた。上杉氏は慶長3年から4年にかけて籠城戦用に、韓国の熊川倭城を参考に改修。

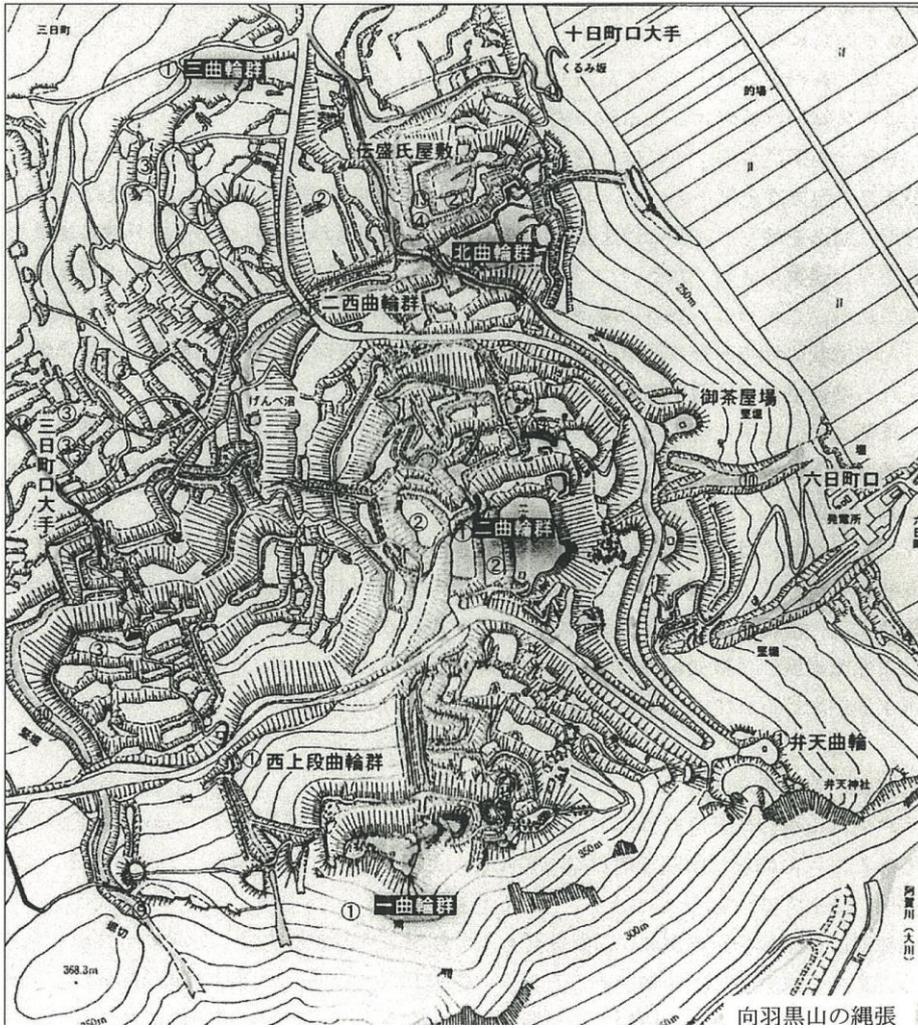
1601年(慶長6年)、関ヶ原の戦いでの上杉軍の敗戦に伴い、慶長6年に廃城となった。

2001年(平成13年)、国の史跡に指定された。

2017年(平成29年)4月6日、続日本100名城(111番)に選定された。

Wikipediaによる





向羽黒山の縄張

国指定 史跡 向羽黒山城跡史跡案内・解説

向羽黒山城跡

戦国時代に伊達氏と並び称された芦名氏が築いた東北地方最大級の山城跡で、当時の政治・文化・社会を考える上でも貴重な遺蹟です。十六代芦名盛氏は黒川城（現、若松城跡）を居城としながらも、本格的な山城として、1561年（永禄4年）、ここ岩崎山（向羽黒山）に築城を始め、八年の歳月を費やし1568年（永禄11年）完成させました。芦名氏滅亡後も伊達氏・蒲生氏・上杉氏の武将達の攻撃的城としての機能が続き、関ヶ原の合戦後1600年（慶長5年）廃城となりました。城跡の遺構として曲輪・虎口・土塁・切堀・石垣等々、中世城郭を知る貴重な姿が極めて良好な状態で残っています。

平成13年8月7日指定

会津本郷町教育委員会
電話(0242)56-3223(公民館)



